

さいたま市公民館運営審議会第5回会議 議事録

1 開催日時

令和4年10月24日（月） 午後2時00分から午後3時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

3 出席者

〈委員：8名〉

- ① 山中 冴子 委員長
- ② 石田 玲子 委員
- ③ 植杉 嘉明 委員
- ④ 加藤 恒 委員
- ⑤ 小林 玲子 委員
- ⑥ 白石 徳一郎 委員
- ⑦ 丹 能成 委員
- ⑧ 寺田 道子 委員

〈拠点公民館職員：10名〉

- | | | |
|-------|-----------|--------|
| ① 西 区 | 指扇公民館長 | 内ヶ嶋 直哉 |
| ② 北 区 | 大砂土公民館長 | 岩井 由起子 |
| ③ 大宮区 | 桜木公民館長 | 大嶋 真浪 |
| ④ 見沼区 | 大砂土東公民館長 | 青木 文彦 |
| ⑤ 中央区 | 鈴谷公民館長 | 井出 浩史 |
| ⑥ 桜 区 | 田島公民館長 | 掛川 雅世 |
| ⑦ 浦和区 | 岸町公民館長 | 星野 務 |
| ⑧ 南 区 | 文蔵公民館長 | 石関 達 |
| ⑨ 緑 区 | 大古里公民館長補佐 | 堀杉 等史 |
| ⑩ 岩槻区 | 岩槻本丸公民館長 | 遠藤 明彦 |

〈事務局：7名〉

生涯学習総合センター

- | | |
|-----------------|--------|
| ① 館長 | 中村 幸司 |
| ② 参事兼副館長 | 中村 和哉 |
| ③ 主幹兼事業・企画係長 | 野口 みずほ |
| ④ 事業・企画係主査 | 曾根 啓佑 |
| ⑤ 事業・企画係主事 | 藤田 雄一郎 |
| ⑥ 事業・企画係社会教育指導員 | 松本 みはる |
| ⑦ 事業・企画係社会教育指導員 | 伊藤 智子 |

4 欠席者名

〈委員：4名〉

- ① 加藤 美幸 副委員長 ② 大塚 晶子 委員 ③ 栗原 保 委員 ④ 島田 正次 委員

5 議題等

- ・ 前回会議録について
- ・ 令和4年度上半期アンケート集計報告について

6 配布資料

- (1) さいたま市公民館運営審議会第5回会議次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第5回会議名簿
- (3) さいたま市公民館運営審議会第5回会議席次表
- (4) さいたま市公民館運営審議会第4回会議議事録
- (5) 令和4年度上半期アンケート集計の報告について

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

冒頭、事務局より前回会議録について説明を行った。

- ・ 議題「令和4年度上半期アンケート集計の報告」について事務局より説明した。

小林委員	アンケートの対象を教えてください。
事務局	調査概要にもあるように、令和4年4月から9月までの公民館59館で実施した公民館講座の受講者を対象に、ICTに関するアンケートを実施した。
寺田委員	(1) 事業回数についてそれぞれどういった講座なのか教えてください。

事務局	若年層対象事業は、青少年対象事業、子供向けの公民館講座を指す。高齢者対象事業では、生きがづくり事業、高齢者学級の講座を指す。その他主催事業は、それ以外の各公民館独自に開催をしている講座を指す。
-----	--

山中委員長	その他主催事業の受講者には、若年層や高齢者も含まれるのか。
事務局	その通りである。本アンケートは ICT の項目のみ集計している。そのため、事業ごとに整理をして集計を行った。
山中委員長	事業ごとの集計結果であることがわかった。大まかではあるが、市民ニーズについて、このアンケートで把握できるようになったと思う。
山中委員長	問 6 について、「その他の意見について」や「講座を受けた感想について」という項目があるが、具体的にどういった意見があったか。
事務局	年賀状の作り方が知りたい、聴覚に障害のある方が ICT 講座を受講できる環境づくりが大事と言った意見があった。

・4つの班に分かれ、「DX 推進のために公民館に期待すること」や「公民館に何ができるか、どんな事業があるといいか」を今までの会議内容を踏まえ、意見交換を行った。

1 班 (石田委員)	講座の開催が一つの役割となると思う。ハード面（設備、機器）を充実させて、オンラインで、各公民館の講座を受講できるようになると良い。居場所づくりも重要な役割のひとつであり、障害のある方、外国の方、一人暮らしの方など、オンラインを活用し、新たな居場所づくりに繋がると良い。小中高生、大学生の力を借りて世代間交流ができると良いという意見もあった。公民館には色々な可能性がある。今後 ICT を取り入れていくことで、公民館が発展していくことを望む。
2 班 (寺田委員)	スマホやパソコンを誰でも使えるようになる講座を開催すると共に、参加者のレベルにあったサークルを作ってみてはどうか。また、窓口等へパソコン相談員を配置してはどうか。いつでも相談できる環境を整備し、生涯学習情報システムの使い方や簡単なスマホの操作方法を学べる場を作ると良い。公民館講座をいろいろな媒体で広報して今まで公民館に来なかった人も参加できるようになると良いという意見もあった。
3 班 (小林委員)	キーワードとして、世代間交流・ICT をサポートする講師の育成・YouTube の利活用・予約システムの簡素化、LINE を広報媒体として活用していくこと等が

	<p>挙げた。世代間交流では、若年層とシニア層がそれぞれ別の講座に参加している傾向にある。そのため各世代が得意分野を共有できるような講座を企画して、お互いに学びの場になると良い。また参加促進のため、若年層へは受験に役立つような証明書の発行を推進していくと良い。ICTをサポートする講師の育成については、地域 ICT リーダーが各公民館を訪れ簡単な相談に乗ってくれるような環境を整備できると良い。このことに合わせ、地域 ICT リーダーの能力向上が不可欠となるため、能力を向上させる講座も開催できると良いと思う。YouTube の利活用については、配信収益化を目的とした講座、各団体の活動内容を発信するための知識を身に付ける講座を開催してみると良いと言った意見もあった。今後、DX 化に向け、既存のシステムの可視化や LINE のアカウントの新設などを行うのも良い。ただ、DX も大事だが、従来通り（アナログ）のやり方も継続しながら DX を推進できると良い。</p>
<p>4 班 (加藤恒委員)</p>	<p>デジタルは（目的ではなく）道具であることを前提に事業を考えたい。デジタルデバイドを解消に向けて講座を開設すると良いと思う。地域 ICT リーダーやボランティアの方が中心となり、誰でも、いつでも、集まれるサロンやカフェを開設できると良い。また、世代間交流として中高生や若い世代からスマホの操作方法などを学べる機会を作ると良い。例えば未来くるワークに参加している学生や、親学に参加している方など。若年層には、受験等に役立つ証明書を発行する、親学では、人生の先輩たちから、子育ての悩み相談に乗ってくれると言ったメリットがあると参加につながりやすいと思う。障害がある方や外国人の方などが気兼ねなく公民館を利用できるように、バリアフリー情報の提供や講座のコミュニケーションサポート、多言語対応など ICT の力を借りてできるようになると良い。その他にも、メールや既存システムに、プッシュ型メールやレコメンドエンジン（一定のルールでユーザーにおすすめ情報を提示する機能）などを採用して、利用者が講座情報を一目で知ることができるように、講座参加者が増えるのではないかと、各団体がオンライン上で活動内容を発表ができる場所を作ってはどうかといった意見があった。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>どのグループも共通して、居場所づくり、世代間交流、障害のある方や外国にルーツのある方が公民館を利用しやすくなる環境づくりと言った、既存の取組みにプラスして ICT を取り入れる意見が多くあった。既存の取組みを生かしつつ、ICT の活用を増やしていくといった発想で、公民館事業における DX 化の推進ができると良いと思う。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>第 1 回の会議から今回のワークショップまでの内容を含め、次回から具体的な答申に関する議題に入る。また過去 2 回の答申も深くかかわってくると思われるため、それぞれを有機的に繋げながら、答申を作成していきたい。</p>

11 その他

次回（第6回）は、令和5年1月24日第2火曜日午前10時から、会場は生涯学習総合センター10階多目的ホールにて開催予定であることを確認した。

12 閉会